

トゲオニソテツの開花について

林 良 之

トゲオニソテツ (*Encephalartus ferox* Bertol. f.) はソテツ科ザミア亜科に属し、南アフリカに分布する。雌雄異株で、羽状葉を放射状に出し、小葉の縁には鋭い刺がある。当園のサボテン温室には、昭和53年11月に2株を地植えし、育成・展示しているが、61年9月、2株ともほぼ同時に、1株は雌の球花を、もう1株は雄の球花をつけた。

開花時の株の大きさは、雌株が幹高21cm、幹径37cm、雄株が幹高18cm、幹径21cmで、羽状葉の長さは両者とも1~1.5mであった。

雌株の球花は鮮やかな朱色で、先端の平らな

四角錐状の鱗片（大孢子葉）がらせん状に並び、長径40cm、短径21cmの楕円形。雄株の球花は2個生じ、一方は長径16cm、短径10cm、もう一方は長径11cm、短径8cmの松かさ状で、長さ10cmほどの柄がある。雄球花は先端部から徐々に開き、鱗片（小孢子葉）の下面にある多数の葯からクリーム色の花粉を大量に出していた。

雄花は10日後には枯れたが、雌花はそのままの状態に残り、翌年2月、結実して鱗片ごと地面にこぼれ落ちているのが見られた。

赤色の種子は長さ4.5~5cmの長楕円形で、各鱗片に2個ずつはさまっており、指でつぶして柔らかい肉質の外種皮を取り除くと、長さ2cmほどの楕円形の硬い部分が現れる。種子はほとんどがしいなで、比較的充実したものを選んで播種してみたが、発芽には至らなかった。



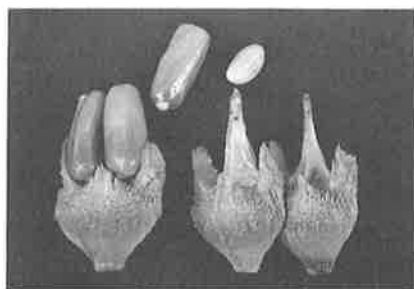
雌株の球花



雄株の球花



こぼれ落ちる種子



大孢子葉と種子